

### ◆単元のポイント

#### ○乳牛とのかかわり

この単元は、テレビやビデオなどで映像としての疑似体験として生き物と接することはあっても、直接その大きさを感じたり、手で触ったりする体験の少ない子供に、生き物の暖かさ、息づかいなどを実感させることを意識して構成しています。生き物の中でも、大型の動物である乳牛を選んだのは、地域に酪農農家があったことと、虫と違い生き物の暖かさを実感できること。また、ペットと違い、食べる・排泄するなどの動きが大きく生命のダイナミズムを実感できるからです。さらに、乳搾りのような体験ができることもあげられます。

#### ○酪農家とのかかわり

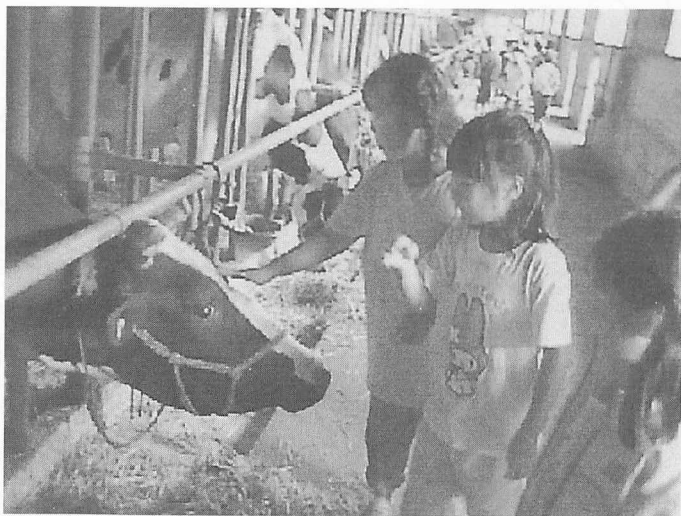
乳牛とのかかわりから、その牛を飼っている人とのかかわりも広げていきます。牛の世話や牛のわからないことを教えてくれる先生として交流を深めていきます。

#### ○2年生とのかかわり

2学年合同での活動を構成することにより、交流が生まれ活動の広がりが出てきます。

#### ○継続的なかかわり

この単元は、年間を通して何度も乳牛とかかわる活動として構成しています。継続的にかかわることにより、乳牛に対する恐れや不安も次第に薄れ、積極的に世話をすることができるようになっていきます。



### ◆単元の目標

○乳牛に対して触ったり、世話をしたりと進んでかかわりをもとうとする。

(関心・意欲・態度)

○お世話をしている人からわからないことや世話の仕方を聞くことができる。

- 乳牛とのかかわりを自分なりの方法で表現しようとする。（思考・表現）
- 乳牛とのかかわりから生命の偉大さや大切さに気付く。（気付き）

## ◆単元の構想（17時間扱い）

### みんな なかよし

#### < 6・7月 >

##### オリエンテーション（1）

- ・牛の様子ビデオなどを見る

#### < 支援のめあて >

- ・実際に牛に会いに行こうという気持ちをもたせたい

##### 1. 牛さんにあいにいこう（3）

- ・実際に牛の世話をしに行く。

- ・牛との接し方を自分なりに考え、いろいろな体験をさせたい

##### 2. 牛さんのことを教えてあげよう（3）

- ・牛との体験を自分なりの方法で表現し、交流する。

- ・体験した感動を形に残させ、交流の中から新しい発見をさせたい

#### < 9月 >

##### 3. 牛さん、またよろしくね（3）

- ・前回の体験を生かしながら、牛とのふれあいの活動をする。

- ・前回の体験を生かしながら、さらに意欲をもって体験できるようにしていきたい

##### 4. 牛さんとのことをのこそう（4）

- ・牛とのかかわりを絵や紙芝居などの方法で表す。

- ・図工との合科的な指導をしながら表現させたい

- ・牛とかかわりをもったあと、その場で表現させるようにしたい

#### < 11月 >

##### 5. 来年またあおうね（3）

- ・世話をした牛にお別れのあいさつに行く。

- ・牛だけでなく、お世話になった人に感謝の気持ちをもたせたい

## ◆実践するにあたって

この実践は、酪農家の協力がなければできません。常に連絡を取りながら学校側の考えを理解していただいて実践していくことが大切です。また、時間的にも余裕をもちながら計画しないと、幅のある活動は難しいと考えます。